

# 学校適応感測定尺度に関する統一化の試み

——最近の研究に用いられた尺度から——

学校教育学専攻  
臨床心理学コース  
M06140A  
三次 豊

## 1. 問題と目的

学校における適応・不適応問題は、学校現場において重要な問題で有り続けている。そこでは、どのように適応・不適応をアセスメントするのかということが重要になってくる。ところが、適応に関するアセスメントの方法は多様であると指摘されている。本研究の目的は、①学校適応に関する最近の研究結果をまとめ、どのように研究が行われてきたかを調査すること、②調査の資料をもとに新しく学校適応感測定尺度を作成すること、③作成された尺度の構造・信頼性について検討をすること、であった。

## 2. 研究 I

### ①調査 I

日本心理学諸学会連合に加盟する学会から入手可能であった 36 の学会誌について調査を行った。キーワードとして「適応」を含む論文が調査され、教育心理学分野において特に多くの研究がなされてきたことが示された(Table 1)。

### ②調査 II

もっとも適応に関する論文が多かった雑誌「教育心理学研究」について注目して調査を行い、適応について過去にどの程度研究が行われてきたかについて調査を行った。その結果 1997 年から適応に関する論文が頻出していることが

確認された。

Table 1 学会誌ごとの適応に関する論文数

学会誌名	論文数
教育心理学研究	55
カウンセリング研究	27
社会心理学研究	19
特殊教育学研究	16
心理臨床学研究	15
パーソナリティ研究	14
上記以外の論文誌	10 件未満

### ③調査 III

調査 II で調べられた論文のうち、最近のものとして 1997 年から 2007 年までの論文について、学校適応を測定するために用いられている尺度に注目し、その信頼性と妥当性がどのように確認されているのか調査を行った。調査の結果、それぞれの論文が独自の適応感に関する尺度を用いて学校適応感を測定していることが示された。また、ほとんどの論文において信頼性の確認が行われていたが、妥当性については確認が行われていないケースがあること、さらに学校適応についての尺度においてはその傾向が強いことが示された(Table 2)。

Table 2 尺度の妥当性の確認状況

	妥当性の確認		計
	あり	なし	
学校適応の尺度	5	8	13
一般的な尺度	7	1	8
計	12	9	21

### 3. 研究Ⅱ

調査Ⅲで調査された研究で用いられている尺度の質問項目をもとに、KJ法を用いることで、新しい学校適応感を測定する尺度の作成が試みられた。グループ化の度合いが大きい項目から採用し、新しい尺度は元の質問項目を十分に採用しながら、37項目からなる尺度として完成された(Table 3)。

### 4. 研究Ⅲ

研究Ⅱで作成された質問紙を実際に実施した。中学生60名、高校生288名が調査に参加した。因子分析の結果、適応的因子として「学校生活享受感」と「適応的友人関係」が、不適応的因子として「抑うつ・不安」「怒り・無力感」「不適応的友人関係」の因子が確認された。 $\alpha$ 係数はそれぞれ.857, .793と.851, .752, .750であり、信頼性が確認された。また、これらの因子は元となった尺度の因子と多く対応関係があることが確認された。

適応得点、不適応得点について、学年差・性差について検討をした。高校生においては性の主効果が有意ではなかったが、これは先行研究とは一致しなかった。中学生にも範囲を広げ、学年を要因とする1要因分散分析を行ったところ、学校享受感について高校3年生が中学2年生よりも得点が有意に高く、抑うつ・不安について高校3年生の得点が有意に低いことが示された。これらのことから、高校3年生において適応感が増すことが考えられたが、その要因を特定することはできなかった。

### 5. 総合考察

これらの研究を通じて、学校適応感を測定する方法について共通性が存在するにもかかわらず、

多様な方法が用いられていることが示された。妥当性の高い研究を行うために、今までの研究を包含するような構成概念のもと、新しいアセスメント方法を開発する必要性、また可能性が示された。

Table 3 完成した質問項目

no	質問項目	
33.	毎日が楽しい	学校享受感
27.	この学校が好きだ	
16.	学校は楽しい	
35.	学校の授業はとても楽しい	
02.	生活はかなり充実している	
01.	リラックスできる	
03.	今幸せを感じている	
34.	何事にも前向きに取り組む意欲があると思う	
08.	全てのものごとが順調に進んでいる	
13.	部活動は楽しい	
18.	将来の目標を持って生きている	適応的友人関係
10.	周りから必要とされていると感じる	
36.	クラスの中で存在感があると思う	
04.	学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる	
05.	学校には友だちがたくさんいる	
30.	周りとの助け合っている	抑うつ・不安
14.	気持ちが沈んでいる	
15.	泣きたい気分だ	
31.	元気がなく、疲れを感じたことがある	
22.	この世から消えてしまいたいと考えたことがある	
37.	不安を感じ、緊張したことがある	
12.	一人ぼっちでさびしい	
26.	自分は役に立たない人間だと考えたことがある	
09.	なんとなく学校に行きたくないと思うことがある	
06.	病氣だと感じたことがある	
11.	私を本当に理解してくれる人は少ないと思う	怒り・無力感
28.	よく眠れない	
24.	友だちにらんぼうな言い方をする	
20.	いらいらして怒りっぽくなることがある	
23.	先生が自分を理解してくれなかった	
21.	人が簡単にできる問題でも、自分にはできなかった	友人関係 不適応的
07.	何かに集中できない	
29.	将来に希望が持てないと感じる	
25.	勉強が手につかない	
32.	友だちにいやなことをされたり、言われたりした	
19.	困った時に助け合える友人があまりいない	
17.	学校ではみんなの中にうまく入れない	

主任指導教員：市井 雅哉

指導教員：嶋崎 まゆみ